

第三滑走路の整備をはじめとする成田国際空港の 更なる機能強化の実現に向けた決議

成田国際空港は、昭和五十三年の開港以来、我が国を代表する基幹的国際空港として、活力ある産業・経済活動を支えるとともに、豊かな国民生活に不可欠な存在として重要な役割を果たしてきた。現在、世界百十を超える都市と結ぶ航空ネットワークを誇り、既に年間発着回数に二十五万回、空港利用客数も四千万人を超え、今後は、訪日外国人を二〇二〇年に四千万人、二〇三〇年に六千万人とする「観光ビジョン」に掲げる目標達成に向け、ますます重要性が高まっている。

こうした中、我が国産業の国際競争力を強化し、更なる経済成長を実現する観点からも、日本のゲートウェイである成田国際空港の機能を強化し、ヒトやモノの国内外への流動性を高めると共に、成田国際空港と有機的かつ複合的に結合する産業基盤やネットワークを整備していくことは極めて重要である。

今般、国、千葉県、周辺市町及び成田空港会社からなる四者協議会において、第三滑走路の建設や夜間飛行制限の緩和、空港容量の年間五十万回への拡大などを内容とする成田国際空港の更なる機能強化が合意された。これにより、羽田空港の機能強化の実現とあわせて、空港容量が世界最高水準の百万回となる巨大空港都市圏が誕生することとなる。

国際的な空港間競争が激化する中で、首都圏空港機能を担う成田国際空港と羽田空港を競争関係ではなく、協創関係として捉えるべきである。両空港が各々の強みを活かした役割分担をしつつ、互いに補完しながら一体と

なつて、アジアのハブ空港としての地位を確立し、我が国の成長に大きく貢献することが求められている。

自由民主党成田国際空港推進議員連盟としては、こうした状況を踏まえ、首都圏空港の一翼を担う成田国際空港が飛躍し、アジアのハブ空港として更に成長するため将来にわたる大きな構想を描きながら、関係機関が一体となつて、成田国際空港の更なる機能強化の一日も早い実現に取り組むことを強く求め、ここに決議する。

記

一 今般の更なる機能強化に関する地元合意を受け、夜間飛行制限の緩和や滑走路建設などによる空港容量拡大を一日も早く実現するため、必要な環境対策の実施、用地の確保、空港施設の整備など、関係者一丸となつて取り組むこと。

二 国際・国内の航空ネットワークの拡充を図るため、増大する旅客・貨物の受け入れ体制を充実させるとともに、エアライン誘致に向けた積極的取り組みを進めること。また、乗り継ぎ利便性や外国人旅行者に対するおもてなしなどに配慮した空港機能の拡張につとめること。

三 夜間飛行制限の緩和や空港容量拡大を踏まえた空港アクセスを確保するとともに物流機能の充実を図るため、旅客・貨物に係る交通インフラ整備を推進すると共に、鉄道やバスなど公共交通の利便性向上に取り組むこと。

四 成田国際空港を活用した地域振興を図るため、「基本プラン」を早期に具体化するとともに、成田財特法

などを活用し、周辺地域の産業振興や交通インフラの確保に取り組むこと。

五 一から四を踏まえた上で、第三滑走路の完成時まで、観光、物流機能の強化を含め、成田国際空港と有機的・複合的に結合する広域経済圏の産業基盤整備を内容とする「成田ゲートウェイ構想（仮称）」について検討・着手すること。

平成三十年三月二十九日

自由民主党 成田国際空港推進議員連盟

会長	二階俊博
顧問	大島理森
副会長	森英介
幹事長	林幹雄
事務局長	梶山弘志
事務局次長	小林鷹之
常任幹事	佐藤勉
	松野博一
	石井準一
	遠藤利明
	濱田靖一
	河村建夫
	望月義夫
	渡辺博道
	吉川貴盛
	秋本真利
	三ツ林裕巳
	門山宏哲
	小倉將信
	木村哲也
	石田真敏
	秋葉賢也
	猪口邦子
	小田原潔
	門博文
	藤井比早之
	豊田俊郎
	進藤金日子

今村雅弘	望月義夫	石田真敏
櫻田義孝	渡辺博道	秋葉賢也
三ツ矢憲生	吉川貴盛	猪口邦子
齋藤健	秋本真利	小田原潔
白須賀貴樹	三ツ林裕巳	門博文
宮内秀樹	門山宏哲	藤井比早之
武部新	小倉將信	豊田俊郎
元榮太一郎	木村哲也	進藤金日子